

プロジェクトリーダー：名古屋学院大学 スポーツ健康学部 横井志保准教授

事業実績調書

(1) プロジェクト名	未就園児を持つ親を対象としたワークショップ
(2) プロジェクトの成果（※そのような成果が得られたかについて具体的に記載）	<p>子育て中の家庭をめぐっては、主な養育者である母親が抱える子育てに係わる不安や心配がストレスとなり深刻な問題となっている。その要因として、子どもの要求を理解できないこと、心配事を未解決のまま放置すること、近隣に話し相手がいないこと等が近年の研究によって明らかになっている。地域から孤立しがちな親子を取り巻く問題は数知れず多い。そこで本プロジェクトは未就園児を持つ親を対象としたワークショップを実施した。コロナ禍において更なる孤立化が考えられたが、4組の親子の参加があった。月に1度同じメンバーでワークショップを4回連続実施したことで、同じような子育ての悩みや、子どもの育ちに関する不安等を専門的な知識を持った大学教員や同じ環境にある他の参加者に話すことができ、人間関係の構築に繋がった。更には地域の情報交換をするなどし、悩みや不安の軽減となった。また、ワークショップ時に別室で託児を実施したことにより、内容に集中でき、母親のリフレッシュに役立った。</p> <p>また、本学学生による託児ボランティアや教員の補助は保育・教育を学ぶ学生にとって講義では学ぶことのできない実践の場となり、4ヵ月間のわずかな期間ではあるが、子どもの成長は大きく、それを目の当たりにし、理論と実践を繋ぐ貴重な学びとなった。</p>

(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法, 時期, 場所, 回数, 市民への周知方法, 参加人員等を含め, その内容を具体的に記載)

1. ポスターおよびチラシによる参加者の募集と受付方法

参加者募集のためのポスターとチラシを作成し, 子育て総合支援センター専門員の加納氏と相談の上, 子育て支援施設に掲示, 配布し, 市の子育てサイトに掲載した。

受付は先着順とし, メールにて受け付けた。

2. 4人の教員がそれぞれワークショップを担当

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発令により予定を組み替え, 特別回が初回となった。

特別回 2021年10月10日 (本学L1教室) 父親を対象としたおもちゃづくり (担当: 宇野)

身近にある材料から工夫して遊べる玩具を作った。参加人数: 2家族 (6名)

第1回 2021年10月27日 (本学L1教室) 季節の飾りづくり (担当: 古川)

家庭で飾ることができる, 簡単な季節の飾りを折り紙などを使って作った。参加人数: 4名

第2回 2021年11月17日 (本学L1教室) ミュージックベル体験 (担当: 横井)

楽譜が読めなくても演奏できる方法でミュージックベルを使用して参加者全員で曲を演奏した。参加人数: 4名

第3回 2021年12月15日 (本学チャペル) ミニコンサートの開催

参加者と学生によるミュージックベル, ドレミパイプを中心としたクリスマスコンサートを実施。他に学生によるクリスマスの物語のスライド紙芝居, 本学オルガニストによるパイプオルガンの演奏を実施。参加者: 9名 (学外), 20名 (学内)

第4回 2022年1月19日 (本学L1教室) 子育ておはなし会 (担当: 吉田)

子育てのエピソードや悩みをくつろいだ雰囲気の中でグループディスカッションした。

3. ワークショップ時の乳幼児は本学プレイルームにて託児を実施

託児ボランティアグループたんぽぽおよび, ワークショップ担当以外の教員の指導による学生ボランティアによる託児を実施。

4. 本学キャンパス, 施設の活用

乳幼児の託児は本学プレイルームを使用し, ワークショップは活動に適したプレイルームに近い教室を使用した。本学キャンパスを会場とすることで, ワークショップ終了後も参加者らがキャンパス内の自然を存分に味わい散歩したり, お弁当を食べたり, 親子でゆっくり過ごすこともできた。

また, スクールバスの利用により自家用車を使用することなく参加することができた。

(4) プロジェクトの今後の課題と展望

コロナ禍ということもあろうが, 参加人数が想定より少なかった。仲間作りのために4回通しての参加を条件としたが, それによりハードルが上がった可能性が考えられる。小さな子どもを持つ親が対象であるので, 子どもの突発的な病気等考えられ, 欠席もあり得ると考えていたが, 申し込みに至らなかった可能性がある。よって, 初期の申し込み後は, どのプログラムにも参加自由とすることで, 参加人数を増やすことができたのではないかと考える。しかし, 少数であったことも幸いし, 参加者の満足度は大変高く, 次年度以降の実施を希望する声や内容の具体的な要望が寄せられた。初めての試みであったが, こども未来課との連携もスムーズに行うことができ, 大学施設の利活用も大いにできた。本プロジェクトを足がかりに次の活動への見通しができた。